

編集の序

平成18年、医療の担い手として知識・技術はもとより、豊かな人間性、高い倫理観、問題発見・解決能力を身につけた質の高い薬剤師を輩出することを目標に薬学6年制教育がスタートした。その6年制においてヒューマニズム教育は初めて導入され、薬剤師が人間の命を預かる職業であることを自覚し、それにふさわしい姿勢、態度、行動を身につけていくための欠かせない教育として位置づけられている。

だが、医療の担い手としての倫理観や人を思い敬う態度、人間関係を良好に育むコミュニケーション力などを養うには、これまでの教育手法では通用せず新たな手法が必要となる。学生同士の討議に加え、さまざまな場面を想定したシミュレーション学習、模擬患者や模擬医療者を相手にしたロールプレイなどを導入することで、参加し体験することを通してさまざまな気づきを得ることができる。そして、適切なタイミングでの指摘や洞察を促す質問などで気づきは更に深まり態度として醸成されていく。人はそれぞれ異なった考え方を持っているという当たり前のこと改めて気づいたり、仲間の発表や振る舞い、人への気遣い方を目の当たりにすることで、自分の中に対応力という引き出しを増やしていくことができる。

こうした気づきのチャンスを少しでも多くするには、興味を喚起する学習課程に即した課題やシナリオが不可欠となる。本書には、編集を担った各大学で実践している授業をはじめ、日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会の大会で報告され、成果の確認された授業を中心にわれわれが受けてみたいと思えるコンテンツばかりを集めたつもりである。薬学教育モデル・コアカリキュラムに即しているが、現任の薬剤師が生涯学習の一環として自分たちの姿勢・態度、コミュニケーション力などを確認する目的でも活用いただける内容となっている。

学習者主体のヒューマニズム教育はまだまだ緒についたばかりである。魅力的な授業を組み立て一定の成果を上げるには、実は準備に大変な手間暇がかかるものである。本書を用いることで、少しでも画一的な教育から脱し、学ぶ皆さんのが主体的に楽しく取り組みさまざまな気づきが得られることを心から願うものである。

2011年9月

日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会会長
東京理科大学薬学部薬学科健康心理学研究室教授
後藤恵子